

SSKP

はれのちくもり

棕櫚亭 賛助会通信

2024年10月 第149号

社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会

東京都国立市富士見台 1-17-4

棕櫚亭 I 地域活動支援センター II 型

なびい 相談支援事業/指定特定・指定一般・自立
生活援助事業/地域活動支援センター I 型

ピアス 就労移行支援事業/自立訓練(生活訓練)
事業/就労定着支援事業

オープナー 障害者就業・生活支援センター



新会長のご挨拶



— 工藤 由美子 —

この度、棕櫚亭賛助会の会長になりました工藤由美子と申します。

今年の三月まで、「なびい」に再雇用スタッフとして勤務させていただきました。

棕櫚亭との関りは、三十年以上前に立川の棕櫚亭Ⅲが開所した頃、週一日の昼食作りボランティアとしてお邪魔したことが始まりです。その後、トゥリニテ、棕櫚亭Ⅲ、ピアス、棕櫚亭Ⅰ、なびいと、オープナー以外の現場を経験させていただきました。

棕櫚亭を知るまで、精神保健についての知識も経験も何もなかった私が、長く仕事が続けられたのは、偏に周りのスタッフの励ましや支えがあったからに他なりません。棕櫚亭の御蔭で、チームで協力することの大切さを学ぶことができました。

この挨拶文を書くにあたって頭に浮かんだのは、NHKの番組「新プロジェクトX」のことです。どのお話の中でも一番大切にされていたのは「人を大事にすること」でした。人を大事にする組織が目標を達成し、成長していく姿でした。

私たち賛助会は、棕櫚亭のスタッフ、利用者の応援団として、寄り添い少しでもお役に立つことができたらと思います。スタッフ、利用者の皆さんが、遣り甲斐や目標を持って、日々の仕事に邁進できるよう、会員の皆様には、どうぞこれからも棕櫚亭のためにお力添えいただきますよう、よろしく願いいたします。

賛助会とは・・・

棕櫚亭の活動を支え発展させたいと平成14年に発足した会で、事務局を棕櫚亭に置いて通信発行や会費の管理、法人への寄付を行っています。

これまで棕櫚亭主催の研修企画の共催・協賛や、独自企画も実施してきました。この10年くらいは通信の発行にとどまっていますが、国立地域をはじめ全国150名あまりの方々や団体に会員になっていただき、棕櫚亭を支えていただいています。会費は個人会員が一口2,000円、団体会員が一口5,000円にさせていただいております。

今回長きにわたって会長を務めてくださった大城英代様に代わって、新しく工藤由美子様が会長を担ってくださることになりました。賛助会通信の内容や皆様が振り込んでくださった大切な会費の適正な運用について、アドバイスやチェックをいただけることはとてもありがたく思っています。

会員の皆様には、年2回の賛助会通信をお届けする予定です。どうぞ今後とも末永く多摩棕櫚亭協会の活動に対するご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

棕櫚亭賛助会 事務局



令和5年度事業報告・令和6年度事業計画

法人本部

令和5年度 事業報告

中期計画がスタートしてから2年目、見直しを行いながら再実施の方向性を探る一年となった。年間を通して施設長会や主任を交えた拡大経営会議で現在の4事業の方向性を話し合い、3カ年の計画作成に取り組んだ。中でも後期は、各事業とも実際の計画を立て再実施への準備をした。

一方職員の年度途中の退職が重なり、各現場の協力を得ながら日々の調整や半期人事異動を行うなど、各事業を成り立たせるために労力を費やした。さらに労働基準法の改正やインボイス制度の開始など国の動きに合わせた対応も必要となり、本来法人本部として中期計画についての議論を重ねたいところであったが、現実な対応に終始せざるを得ないのが実際であった。

この様な状況の中でも、地域貢献として位置付けている食を通じた取り組み（こども食堂や学習支援等）への関わりや、当事者活動へのサポート（ふらった一新聞の発行や講演会への講師参加）などは順調で、着実に広がりを見せた1年であった。

重点目標 《中期計画の見直しと再実施》

今年度は「現4事業・法人本部・新規事業」と3つの枠組みに分け、計画の以下の2点について見直しを行った。

- ① 施設長会、拡大経営会議を使って現在の4事業の方向性と3ヶ年計画を作成、さらに全体職員会議で職員全員と共有する機会も持った。それぞれの計画を作り上げたことは貴重な機会となった一方で、忙しい業務を抱えながらの作成であったため、十分な時間をかけられなかった事も否めない。次年度はさらに議論を重ね精査していき、再実施することが目標となる。
- ② 法人本部の計画の見直しと3ヶ年計画の作成を行う。4事業と同じ項目立てにし、法人として同じ視点で3ヶ年を考えていけるような工夫もした。また、本部として「大切にしていること」5点も盛り込み、計画の根底にある基本的な姿勢も示した。

- 1, 精神科病院や社会的入院の問題の解消に常に関わっている。
- 2, どこにいてもメンバーが常に幸せであることを目指し活動する。
- 3, 職員が健康で幸せに働き続けられるよう取り組み続ける。
- 4, 自分達からつながること、つなげることをいつも意識し続ける。
- 5, いつでも誰でもウエルカム対応、懐の深さ。

I. 組織運営

A. 理事会・評議員会… 理事会を4回、評議員会を1回開催した。特に理事、監事が一部交代となったが、議論にも積極的に関わって下さり法人運営の上で心強い存在は変わっていない。ただし、多忙な方が多く、会への出席の調整が以前よりもより難しくなっている面はある。また、理事・評議員双方の懇談会を今年度も前期に実施し、中長期計画の進捗だけではなく組織全体の報告をしつつ意見やアドバイスをもらった。自分達の取り組みを振り返る貴重な機会である。

B. 事務局… 日々の会計入力、ピアス実績入力等、各事業所の協力もあり進捗を確認しながら滞りなく処理することができた。経理では消費税の処理方法他会計処理について梅林税理士事務所とやり取りをしながらアドバイスをいただいている。今後も正確性を維持しながら安定した会計処理の継続に努めていく。総務では修繕箇所の優先順位を確認しながら屋上修繕を行った他、若干増えた労災申請への対応を行った。また昨年からはめたその都度判断した事案に関して、今年も備忘録を継続した。さらに毎月の事務局会議と都度の事務局通信を発行し、情報共有や発信を全事業所に行った。今後は事務局に職員不在時の対応等、情報の共有方法を工夫しながら、事務局の役割分担、複数体制についての検討が必要と考えている。

C. 情報発信 HP…現在準備中。早期のリニューアルを目指す。 **賛助会通信**…年度内に1回発行。

D. 地域(社会)貢献

◆食を通じた貢献…新規提供者については一家庭増え、学習支援団体を通じて家族4人分の食事提供を開始した。その他の活動については今まで通り順調である。

◆当事者発信

ふらった一新聞…2号を12月に発行し3号を準備中。今後のインタビュー先を国分寺社協の居場所支援にするなど連携先も広がりを見せている。

世田谷ピアサポート事業…ピアスの生活訓練事業にピアサポーターの実習体験として利用された。

E. 渉外

【国立市】障害区分認定審査会、自立支援協議会、社会福祉協議会評議員、社会福祉法人連絡協議会、社会福祉協議会まごころプラン推進・評価委員会、櫻の杜ハウス運営委員会

【その他】白梅会理事、はらからの家福社会評議員、えりじあ福祉会第三者委員、かいゆう第三者委員（兼虐待防止委員会参加）、電気神奈川福祉センター評議員、厚生労働省「障害に対する差別禁止・合理的配慮に係るノウハウ普及・相談支援事業に係る提案書技術審査」委員、東京都自立支援協議会、東大和市自立支援協議会就労部会、調布市こころの健康センター運営委員、厚生労働省「就業支援担当者の育成に係る研修カリキュラム作成作業部会」委員、高障求（JEED）「就労支援実務者の専門性と支援力に資する知識スキルに関する研究」有識者委員、東京都障害者雇用優良取組企業 選定委員

F. リスクマネジメント

◆防災…年間通じてプロジェクトを実施し、大災害を想定した職員・利用者向け訓練を企画。また AED と救命講習、BCP 研修も例年通り実施した。

◆苦情解決…下半期に第三者委員が参加する苦情・虐待委員会を実施。また2月には担当者が集まったオンライン研修も行った。実際の苦情に関しては最終的にはご本人から取り下げがあったが、2月に1件苦情解決責任者に電話が入るケースがあった。

II. 組織管理

A. 人材育成…下半期に佐々木氏による研修を4回実施。また昨年度に引き続き職員のメンタルヘルスオンライン研修を全職員に向けて2回、管理職に向けては1回実施した。さらに1月にはハラスメントについての管理者研修を中小企業センターの和田氏を講師に迎え行った。

B 雇用管理…下半期には上半期に行った現状の洗い出しをもとに、労働条件明示書の作成を始めとして、労働基準法の改正に基づく具体的な対応を行った。また非常勤職員の時給については、上半期に続き下半期にも見直しを行った。人事については通年を通し、産休や退職が続く中、事業継続を考えながら調整が続く1年であった。

令和6年度 事業計画

重点目標【職員を大切に、元気で働きやすい組織を目指す】

- ◆ 中期計画の見直しと再実施の継続…法人本部と4事業それぞれの計画の整合性を付けて、法人として一つの計画にし、再実施する。
- ◆ 職員の育成…複数面談体制の拡大等
- ◆ 職員の採用…常勤・非常勤各1名
- ◆ 雇用管理への取り組みの継続…職員処遇・資金計画の策定

I. 組織運営

- A. 理事会・評議員会…定例開催（理事会：5月・11月・3月、評議員会：6月）に加え、懇談会を予定
- B. 事務局…正確且つ安定した事務処理（会計・個別給付実績入力）の継続に加え、事務局会議・事務局通信の定例実施。梅林会計事務所にアドバイスをいただきながらのより正確な会計処理
- C. 情報発信…HPのリニューアルを前期で完成させるとともに、賛助会通信を2回発行
- D. 地域（社会）貢献
 - ◆ 食…おいしい時間（第1水曜日）・ラボくにスタ（第3水曜日）・国立市社会福祉協議会学習支援（毎週月・木曜日）・銀風工房（第1・3金曜日）・パワーアップ塾（毎週月～木曜日）・リングリンク国立（毎週木曜日）の継続
 - ◆ 当事者発信…ふらった一新聞（ひきこもり等生きづらさを感じている方たちへの新聞発行・年4回予定）の継続及び、世田谷ピアサポート事業へのフォローアップ研修への講師参加への継続サポート
- E. 渉外…外部委員の継続（報告参照）
- F. リスクマネジメント
 - ◆ 防災…プロジェクトを中心に防災訓練・職員研修・連絡訓練・AED及び救命講習の実施の継続及び、感染症対策訓練・研修の開催。また福祉避難所版と事業再開計画を盛り込んだBCPのバージョンアップ予定
 - ◆ 苦情解決…担当者・第三者委員を招いての委員会の継続実施に加えて、委員会による全体研修の実施



棕櫚亭 I（地域活動支援センター）

令和5年度 事業報告

令和5年度基本データ(R6.3月現在)

| | | | | | |
|-------|------------------|--------|-------|--------|---------------|
| 登録者数 | 41名 / 平均年齢 47.1歳 | | | | R4(36名)/46.2歳 |
| 内 訳 | 国立市内(38) 市外(3) | | | | |
| 性 別 | 男性(24) 女性(17) | | | | 男(22) / 女(14) |
| 新規入所者 | 9名 | | | | 7名 |
| 見 学 者 | 12名 | | | | 20名 |
| (紹介者) | 市(2) | なびい(7) | GH(1) | ピアス(1) | 家族(1) |
| 実 習 者 | 10名 | | | | 9名 |
| 退 所 者 | 4名 | | | | 3名 |

全体として

- 4月より午前利用も含めて「いつ来ても、いつ帰っても良い」ルールを導入。前期に比べて後期の利用者数は増加し、日々の昼食作りでは13名程度を目安に準備をし、リハビリ手当の金額も増えてきた。
- 後期の人事異動で新しい体制になり、チーム作りやグループワークの役割分担等、手探りしながら行った。スタッフの得意分野が変わったことで、新しいプログラムやコミュニケーションスタイルも広がった。

★利用者増を目指した→新規9名入所

自宅から一歩出ていく場所・誰かと話せる場所・気分転換の場所として選んでもらう施設になる。

- 9名のうち5名の方が引きこもりの方であった。他4名は、B型など他に活動場所がある方。すぐに定期利用となる方は少なく、逡巡しながらの利用が殆どで、2~4ヶ月かけて少しずつ人慣れ・場慣れしていく様子。安定的に作業やプログラムに入る方は約3割。新規の方に絵画人気は高かった。
- 利用目的を整理したところ、Iをフル活用しているメンバーは、「生活リズムに組み込まれて自分の居場所となっている」という目的で、「PM プログラムに出たい」「誰かと話したい」「B型と併用して、気分を選びたい」「作業がしたい」「定期面談してほしい」という方々の共通の目的は、コミュニケーション。
- 家族との関係や親の介護状況、人間関係などで利用の仕方が流動的に変わっていくため、それぞれのメンバーのニーズに合わせた作業やプログラムを引き続き考えていきたい。

★丁寧な支援

① 新しい職員体制でのチームづくり⇒職員間でのコミュニケーション

- 朝、メンバーの共有や、スタッフが自身の対応の仕方がどうだったか等について話し合うよう心掛けた。
- 2月に、あるメンバーより苦情があがり数日後には取り下げられたが、自分の苦しさを理解してもらえなかったという訴えであった。今後はご本人の訴えがどこにあるのか丁寧に話しを聞き、苦情としてあがった時に担当者がきちんと聞き取れるよう項目を整理した対応マニュアルを作成する予定である。

② グループワークに力を入れた⇒プログラム後のふりかえりと見学

- Iに新たに入所してくる方は緊張感も高いため、なるべくメンバーからも声かけを意識してほしいこと、また、利用人数も増えたことで、サポート的なコミュニケーションを学んでいってもらいたいなど、メンバーに伝えている。その中で、役割をメンバーが引き受けてくれる場面が増えてきている。
- ピアサポート活動の見学を行った(12/3JHC 板橋・サンマリーナ)

★法人内でのプログラム連携⇒合同イベントの開催など

- ピアスとの Life プログラム「自分のお金の使い方を知ろう！」⇒ 国立社協より「自立支援事業」として家計管理講座を提案いただき、2クール講座を受けた。なびいのヨガやスポーツにも参加。好評であった。

令和6年度 事業計画

★メンバーへのていねいな対応や支援を心掛ける

- メンバーの様々なニーズやチャレンジに対応できるようチーム作りをしていく
⇒日々の共有の中でスタッフそれぞれの考えをすり合わせていくことやメンバーとの関わりについて振り返りを意識的に行っていきたい。
- それぞれのメンバーのトピックスを押さえ、必要に応じた支援に繋がられるよう意識していく
⇒毎月ごとに生活面やIでの様子などの振り返りをし、1年の流れが見えるよう作成していく。
- アサーションプログラムに取り組んでいく



なびい(相談支援・地域活動支援センター)

令和5年度 事業報告



令和5年度基本データ(R6.3月現在)

登録 175名(平均年齢49.6歳)

新規相談:45名(委託事業20 計画相談18 移行定着6 自立生活援助1)

計画相談:185件(対象118名 新規・更新113 モニタリング72)

個別支援:面接相談727(643) 電話相談6683(6132) 同行164(98) 訪問272(191)

関係機関調整1327(1340) ケア会議67(67) *()内 前年度

個別給付:地域移行1 自立生活援助1

地活事業:延べ2117名(1837) *()内 前年度

和食の会58(61) ウォーキング0(15) ヨガ教室30(15) デイサービス58(41) パソコン倶楽部20(20)

おたのしみ会99(34) 昼食サービス135(35) フリースペース1683(1606) ランチ会21(10)

ぷちプロ13(0)

全体として

日常の支援を取り戻すことを優先課題として取り組んできた。中でも地活は「コロナ禍対応」で影響を受けた飲食をいち早く解禁し、人と接するプログラムを行い、活動しやすいようにフリースペースの様態替えをした。また、支援と活動の質をあげていくために「地活」をテーマにした職員会議を増やし活性化を目指した。特に「気軽に来る・参加する」を提供するために1回だけの参加や短時間にするなど工夫を行ったことで、その結果、前年度よりも多くのメンバーが利用し、年度後半は新しいプログラムが定着した。また、相談から地活プログラムを利用し、通所の事業所を紹介するという支援の流れも回復してきた。しかし、実施日の職員体制や緊急の支援などの理由で確保できないことがあった。来年度は確実にいけるよう工夫が必要である。

新規の相談が前年度より数が伸びている。相談内容は多岐にわたり、深刻な背景や課題を抱えた方々の支援に苦慮している。特に信頼関係の構築が難しい方の意思決定支援については、関係機関との連携支援を行う必要があるため、相談の力量やコーディネートのスキルも早急に付けていかなければならない。一方、地域移行は3件動き出しているが、始まったばかり。丁寧かつ慎重を要するケースで、1クール(6か月)では間に合わないため、延長をしながら行う予定である。

計画相談事業については、これまで出来ていなかったモニタリングがやや改善していることと、市からの計画相談依頼は最大限引き受けていることなどから、全体的に件数は上がっている。

市及びくに精連、三者会を通して計6件の地域移行相談があった。そのうち3件について、支援開始、医療機関への訪問が始まっている。自立生活援助事業については、1件継続支援している。単身者の「食」にまつわるニーズが見えてきているところである。

くにたち地域では、くに精連が「にも包括」を意識した活動を昨年に引き続き行っている、今年度は全部で6つのワーキンググループがあり、なびいのメンバーが第5商業高校での出前講座やピア活動で力を発揮した。

また、計画相談事業所の連絡会議が復活した。地域の中では、滝乃川学園の相談支援事業所の研修を、なびいがコーディネートして合同開催することができた。今後も、具体的なネットワーク構築が重要となる「にも包括」や「地域生活拠点」を意識し活動していきたい。さらに、2年間行われなかった自立支援協議会について国立市と事務局団体が協議を行い、再開に向けて話し合いを重ねた。実情を重く捉え、なびいが地域における責任と役割を果たしていきたい。

令和6年度 事業計画

なびい活動基本方針

『生活支援部門として支援力をつける』『地域連携を通じた地域全体の福祉の質の向上を意識する』
相談支援の質の向上 安心に配慮された場作り 地域への意識

<重点> にも包括・地域生活拠点・自立支援協議会を見据えたネットワークづくり
長期在院・社会的入院について地域移行支援を主軸にしながら取り組む

国立市委託 自立支援協議会事務局として参画 くに精連本会及び準備会(実働部隊)として参画
→発信・提言・推進 市新体制との関係作り+市内障害福祉ネットワーク構築への貢献

相談 『背景課題』への対応→情報収集+知識獲得+ネットワーク構築

地活Ⅰ 他市援護者の地活利用の可能性の追求

計画 モニタリング件数を増やすための工夫の検討

地移定 くに精連参画を通して対象者を把握し、地域移行支援へつなげる

自生援 対象となるケースの精査とそれに基づいた迅速な導入

他 講座 地域の支援者を巻き込んだ研修の開催 1回/年 生活支援部門事例検討 2回/年

ピアス(就労移行支援・生活訓練・就労定着支援)

令和5年度 事業報告

令和5年度基本データ(R6.3月現在)【就労移行・生活訓練】

| | | 2023年度 | 2022年度 |
|--------------|------|--------|--------|
| 見学者数 | | 33 | 56 |
| 体験者数 | | 27 | 27 |
| 入所者数 | 移行 | 14 | 18 |
| | 生訓 | 15 | 12 |
| 平均利用人数 /日 | 移行 | 15.4 | 16.6 |
| | 生訓 | 8.9 | 9.0 |
| 職場実習 | のべ件数 | 24 | 32 |
| | 実人数 | 17 | 16 |
| 就職者数 | | 10 | 12 |
| 退所者数 | 移行 | 4 | 3 |
| | 生訓 | 8 | 9 |



【定着支援事業】（ ）内 前年度

利用者総数:26名(25名) 毎月の平均利用者数:17名(19名)
 今年度新規利用:就職者10名中8名(9名) 6ヶ月定着率100%
 今年度利用終了:6名 /満期終了4名(8名) 離職による終了2名(2名)
 3年間定着率:81.6%(82.2%) /3年間の利用者総数49名中 定着者数40名(45名)
 OB会:12回 フォローアップCES:12回 メール配信:16回

全体として

生活訓練事業を立ち上げて10年が経とうとする今年度。この事業の変遷や効果の振り返りつつ、自分達の取り組みを外部発信することは年度当初から目標に挙げてきた。ピアスの就労支援を多くの人に知ってもらいたいと、11月に行われた職業リハビリテーション実践報告会で『「働きたい」から「働き続ける」へ～就労移行支援と自立訓練(生活訓練)事業の一体的運営の変遷を振り返る～』という題目で舞台に立つことが出来た。めったにない機会だが、スタッフの個人的な成長の手段になり得るし、今後検証したいことに気付いたりもしたが、この1回だけで多くの人に知ってもらえたわけではない。引き続き自分達の取り組みの検証と改善をしつつ、外部発信していく。また、年度途中で異動や退職者があったことで、タイトなスタッフ体制が日常的に続いているが、様々な場面でオープナーと協力して乗り越えている。

就労支援の充実

○ 安定運営【就労移行支援・生活訓練】

就職者は年間目安の10名を達成している。

新規入所は月平均2.8名で、目標の3名には届かなかった。日々の丁寧な連携には努めたものの、区市町村センターへの訪問や広報後のフォローに取り組むことができなかった。また、今年度は中断による退所者があったりや利用が安定しきれないケースもあり、移行の一日平均利用人数が昨年を下回った。生訓を使っても安定出勤に繋がらないケースもあることから、今後推移をみていく必要がある。

就労支援の質

【就労移行支援事業】

○ トレーニング

スタッフ体制が厳しい中ではあるが、オープナー職員と連携することで、より職場に近い場面を設定することができた。昨年からの模索している事務補助のトレーニングについてのヒントを得るため、知的障害のある方が働く軽作業の職場を見学した。それを踏まえて試行錯誤していく。

就労プログラムは、コロナ禍を経て再開したグループワークを基本として進めてきた。グループ性を高められた手ごたえは今一歩だが、目の前の作業を<要素>として考えられるように、という意図でプログラムを工夫してきた。その成果は出てきている実感がある。

一方、生活訓練から利用を始める方が増える中、生活訓練利用期間と就労移行の体験期間が長期化する傾向が

出てきている。実践的なトレーニングを提供する就労移行として、その質を保っているのかについて、検証していく必要を感じている。

○ 他施設見学・合同職員会議の継続

昨年度に引き続き、上半期から他機関と意識的に関わりを持つようにしてきた。今のピアスに必要だと実感しているので、今後も継続していく。

○ ケース検討の充実

今年度の目標に挙げていた1年を区切りとしたケース検討を意識して行った。また、月一回の会議でモニタリング月の方を対象にケースの共有・検討を行い、誰も埋もれることのない仕組みにしてきた。最近ではこの時間でモニタリング、個別支援計画を共有することにより、計画作成の徹底をはかっている。しかし利用者層の広がりもあり、1年経った時点での担当としての自分の見立てに不安を持つこともある。これからも「区切り」を意識しながらケース検討会議をすることは続けていくが、その時期には複数で担当できるような形にすることも検討していく。

【生活訓練事業】

新規入所が15名と年々利用者数は増加している。集団や活動に慣れていない方が増えたことから、学べる機会をもてる仕掛けを意識的に行った。特に後期からは利用者同士の交流がもてるように茶話会を実施。また、第Iからの誘いでライフプログラムを再開することもでき、生活のための学習の機会をもつことができた。引き続きグループ性を高めながら、『安心の場であり、かつ就労を目指せる生活訓練』をつくっていく。

【定着支援事業】

今年度は、退職した方が2名、就職したがこの事業を利用しない方が2名など、利用者数そのものが思うように増えなかったり、利用料が発生することから利用頻度が減少したりして、予測よりも実績が下回った。今後も3年間の定着率8割を維持することが目安になる。実際この事業を利用した場合の方が定着率が高いことも数字として出ている。

支援の質については、後期に共有を一度行ったのみであった。日々は移行を優先してしまいがちになり、その合間を縫って面接時間を工面している状況があり、担当者間やオープナーとの共有する時間が持ちにくいのが現状である。

プログラムとしては、土曜CES参加者が少なくなっているのが検討は必要だが、OB会は開催時間を工夫したことで参加者層が広がって、新しいメンバーとベテランメンバーが繋がる機会となったり、現役メンバーとの関わりももつことで、お互いのいい刺激となった。

令和6年度 事業計画

より多くの人にピアスを利用してもらう

【安定運営(経営)】<就労移行・就労定着・生活訓練>

- ① 就職者/上・下半期とも5名・合計10名、半年定着率100%
- ② 新規入所/両事業合わせて月3名(移行12名、生訓→移行6名、生訓18名)、定着支援事業へのスムーズな利用開始へ
- ③ 区市町村就労支援センターを中心としたつながりをひろげる
- ④ 移行の1日平均利用者数18名、定着支援の1ヶ月利用者数20名
- ⑤ 職場実習/年間10名以上

移行の機能を中心に検証し、改善へとつなげる

【就労支援の質(サービス)】

<就労移行・定着支援>

- ① 両事業の一体的サービスが移行に与えている影響(主にトレーニング)を検証し、改善へとつなげる
- ② 1年ケース検討の充実(全員に実施、チームで把握)
- ③ ケース複数体制での取組み(節目ごと)により抱え込まない、複数の目でより良い質を目指す
- ④ 外部からの学び、外部とのつながりの機会をより増やす
・選択支援事業にどう取り組むか・より幅の広い層の受入れに対応できるように
・常に外向きの視点を取り入れる
- ⑤ 質の共有や相談・連携の機会を増やし、事業の意義を整理する【定着支援】

<生活訓練> 「安心の場であり、かつ就労を目指せる生活訓練」をめざす

- ① グループ性を高めていく活動の充実を行うことにより、集団活動・コミュニケーションの機会を増やす
- ② 安心して利用する・移行体験の質をより良いものにしていくために、移行との情報共有の工夫を進める
- ③ 移行への移籍の目安を検討することで、生活訓練の機能を明確にしていく

オープナー(障害者就業・生活支援センター)

令和5年度 事業報告

令和5年度基本データ(R6.3月現在)

○利用者数 511名 うち就業中318名

○新規電話相談者 191名(154名)

疾病別:

発達障害 36名、統合失調症 36名、気分障害 33名、知的障害 16名、身体障害 7名、高次脳機能障害 1名、アルコール依存 1名

紹介元: 本人 55名、ハローワーク 32名、職業センター4名、就労移行 18名、就労移行以外 40名、特別支援校 3名、大学 4名

登録または継続相談: 21名

○新規登録者 51名(43名)

○就職者合計 31名(26名)/目標27名 → うちピアス10名

○職場実習者 44名(37人)/目標 38名 → うちピアス11名

○退職者 23名(23名) 1年未満6名 1-3年未満6名 3-5年未満5名 5年以上6名

全体として

今年度目標であった、就職数・実習数等、数値目標は達成できた。

新規相談件数は191件とコロナ禍以降(令和2年度100件→令和3年度146→令和4年度175)、上昇が続いている。障害別では、ここにきて他障害、とりわけ知的障害の方の相談が増加している。紹介元も多様になっており、教育系(大学・特別支援校・専門学校)、福祉(婦人施設・措置事業)系、行政機関等、新規での紹介先機関が増えている。大学とは学生向け研修を開催するなどつながりができた。広域支援の特徴から、住所地に特定されることなく繋がる方も増えており、オープナーあるいはなかぼつの認知度が上がっていると感じられる。

就職者については、ここにきてコロナ以前の就職状況に回復してきているが、これは次年度雇用率引き上げに伴う大企業の採用活動の活発化の影響が大きく、相談者においては、準備性を問わず採用が決まった方や、ご自身で活動を始めてしまうなど伴走型の支援を好まない方もおり、関わり方や支援のタイミングなど難しさを感じている。アセスメントは今年度も多くの方に利用してもらえた。一人ひとりに合わせた内容にしたことで、気付きにつながりやすく本人が腑に落ちるフィードバックになった。しかし今後は就労選択アセスメントに向けてパッケージ的のものや、基準などの検討が必要である。

定着支援は、退職者23名と前年同様増加傾向にあることから、定着支援がうまくいっているとは言えない面はあるが、現場の実感としてはそうとばかりも言えず悩ましい面もある。伴走型支援が出来ない方の増加で、本人と会社で見方に齟齬があり、退職理由がうまくつかめない実態もある。ジョブコーチは3件ともピアス利用者で、本人との関係を早い段階で作ることができ、作業内容の助言やツールの導入など支援の入りやすさがあった。談話室は、今年度になってからは徐々に集合型の参加者が増えていて盛況である(平均15名)。

なかぼつの支援の対象の中心は、障害種別や相談内容が一層多様化している本人や企業であるが、ここにきて関係機関等へのスーパーバイズ的な役割も少しずつできてきている。そういう意味でも、他機関との連携や私たちの支援の質が求められている。年度末には知的障害についての研修会も予定しており、来年度も支援力の向上に努めていきたい。

その他、今年度は国立・小金井・三鷹・武蔵野・調布(2センター)の市就労支援センターと個別に大小イベントや学習会等を開催している。B型訪問もおこなった。就労系学習会講師も断らず受けている。併せて、都内なかぼつ6センターでの定例センター長会の開催のなかで、合同連絡会の開催や東京都への要望書提出ができた。

当事者セミナーでは4年ぶりの集合型開催を国立芸小ホールで開催することが出来た。国立市と共催出来たことで市民の方の参加もあり、多くの方から好評価をいただいた(150名)。

中小企業応援連携事業は、目標達成率100%(求人票作成1社)。

精神障害者就労定着連携促進事業は、2クール目の最終年度で、連絡会を2回開催した。コミュニケーションツールを各所に送付し普及を目指しているところである。ブラッシュアップしていきたい。

令和6年度 事業計画

- ① オープナーのサービスの質の担保と職員の支援力向上
- ② 職員体制(チーム力の維持)と役割分担の整理
- ③ ネットワーク構築と活用拡大・なかぼつとして、「地域に求められるセンター像」の模索
- ④ 当事者発信を応援していく



令和5年度 会計報告

財産目録 令和6年3月31日 現在

(単位：円)

| 貸借対照表 | 場所・物量等 | 貸借対照表価額 |
|---------------------|------------------------------|-------------|
| I 資産の部 | | |
| 1 流動資産 | | |
| 現金預金 | | 82,473,029 |
| 事業未収金 | | 14,394,444 |
| 未収補助金 | | 31,706,955 |
| 立替金 | | 100,225 |
| 流動資産合計 | | 128,674,653 |
| 2 固定資産 | | |
| (1) 基本財産 | | |
| 土地 | 東京都国立市富士見台1丁目17番4 | 109,298,600 |
| | 東京都国立市大字谷保字御経塚4999-3及び5001-3 | 31,526,126 |
| | 小計 | 140,824,726 |
| 建物 | 東京都国立市富士見台1丁目17番4 | 54,212,895 |
| | 東京都国立市大字谷保字御経塚4999-3 | 6,014,778 |
| | 小計 | 60,227,673 |
| 基本財産合計 | | 201,052,399 |
| (2) その他の固定資産 | | |
| 固定資産 | | 1,315,382 |
| 権利 電話施設設置負担金 | | 77,984 |
| 積立資産 | | 89,491,269 |
| 差入保証金 | | 1,158,572 |
| その他の固定資産合計 | | 92,043,207 |
| 固定資産合計 | | 293,095,606 |
| 資産合計 | | 421,770,259 |
| II 負債の部 | | |
| 1 流動負債 | | |
| 事業未払金 | | 5,705,845 |
| 未払費用 | | 2,862,089 |
| 未払消費税 | | 1,168,300 |
| 預り金 | | 14,758 |
| 職員預り金 | | 3,943,795 |
| 委託費預り金 | | 64 |
| 賞与引当金 | | 8,586,268 |
| 流動負債合計 | | 22,281,119 |
| 2 固定負債 | | |
| 設備資金借入金 | | - |
| 長期運営借入金 | | - |
| その他の固定負債 | | - |
| 固定負債合計 | | - |
| 負債合計 | | 22,281,119 |
| 差引純資産 | | 399,489,140 |

貸借対照表

令和6年3月31日現在

法人合計

(単位：円)

| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
|---------------|--------------------|-------------------|-------------------|
| 勘定科目 | 法人合計 | 勘定科目 | 法人合計 |
| 【流動資産】 | 128,674,653 | 【流動負債】 | 22,281,119 |
| 現金 | 600,116 | 短期借入金（区分間借入） | - |
| 施設 | 539,831 | 1年以内返済予定設備資金借入金 | - |
| 授産（小口） | 60,285 | 1年以内返済予定長期運営資金借入金 | - |
| 預金 | 81,872,913 | 事業未払金 | 5,705,845 |
| 三井住友銀行 | 34,631 | 未払費用 | 2,862,089 |
| 多摩信用金庫 | 46,553,741 | その他の未払金 | - |
| JA | 35,284,541 | 未払消費税 | 1,168,300 |
| 事業未収金 | 14,394,444 | 委託費預り金 | 64 |
| 未収金 | - | 預り金 | 14,758 |
| 未収補助金 | 31,706,955 | 職員預り金 | 3,943,795 |
| 立替金 | 100,225 | 賞与引当金 | 8,586,268 |
| 前払費用 | - | 【固定負債】 | - |
| 未収収益 | - | 設備資金借入金 | - |
| 短期貸付金（区分間貸付） | - | 長期運営資金借入金 | - |
| 未収消費税 | - | 退職給与引当金 | - |
| 【固定資産】 | 293,095,606 | その他の固定負債 | - |
| 基本財産 | 201,052,399 | 負債の部合計 | 22,281,119 |
| 土地 | 140,824,726 | 【純資産の部】 | |
| 建物 | 60,227,673 | 基本金 | 88,995,466 |
| その他の固定資産 | 92,043,207 | 1号基本金 | 88,530,029 |
| 建物 | - | 2号基本金 | - |
| 構築物 | - | 3号基本金 | 465,437 |
| 機械及び装置 | 485,444 | 4号基本金 | - |
| 車輛運搬具 | 3 | 国庫補助金等特別積立金 | 111,713,306 |
| 器具及び備品 | 829,935 | その他の積立金 | 89,491,269 |
| 土地 | - | 人件費積立金 | 14,500,000 |
| 権利 | 77,984 | 修繕積立金 | 39,800,000 |
| 人件費積立資産 | 14,500,000 | 備品購入等積立金 | 15,000,000 |
| 修繕積立資産 | 39,800,000 | 工賃変動積立金 | 357,633 |
| 備品等購入積立資産 | 15,000,000 | 設備資金積立金 | 19,833,636 |
| 工賃変動積立資産 | 357,633 | 次期繰越活動収支差額 | 109,289,099 |
| 設備整備積立資産 | 19,833,636 | 次期繰越活動収支差額 | 109,289,099 |
| 差入保証金 | 1,158,572 | （うち当期活動収支差額） | 4,488,266 |
| その他の固定資産 | - | 純資産の部合計 | 399,489,140 |
| 資産の部合計 | 421,770,259 | 負債及び純資産の部合計 | 421,770,259 |



資金収支計算書

（自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日）

（単位：円）

| 科目 | R5年度 法人合算 | 拠点区分 | | | | |
|------------------------|--------------|------------|-------------|------------|------------|------------|
| | | 本部 | ピアス | なびい | 総機季Ⅰ | オーブナー |
| 事業活動 | | | | | | |
| 収入 | | | | | | |
| 就労支援事業収入 | 18,380,005 | - | 18,380,005 | - | - | - |
| 障害福祉サービス等事業収入 | 203,302,342 | 15,335,200 | 90,706,563 | 24,574,283 | 19,745,140 | 52,941,156 |
| 経常経費寄付金収入 | 575,000 | 575,000 | - | - | - | - |
| その他の収入 | 554,560 | - | 328,760 | 175,800 | 50,000 | - |
| 受取利息配当金収入 | 2,134 | 1,513 | 576 | 22 | 15 | 8 |
| その他のサービス活動外による収入 | 1,018,615 | 946,659 | 65,956 | 6,000 | - | - |
| 事業活動収入計 | 223,832,656 | 16,858,372 | 109,481,860 | 24,756,105 | 19,795,155 | 52,941,164 |
| 支出 | | | | | | |
| 人件費支出 | 157,520,146 | 14,495,316 | 53,816,547 | 23,185,107 | 17,591,906 | 48,431,270 |
| 事業費支出 | 7,758,358 | 988,831 | 5,542,934 | 537,116 | 689,477 | - |
| 事務費支出 | 32,792,727 | 6,869,650 | 11,786,820 | 4,697,381 | 1,629,937 | 7,808,939 |
| 就労支援事業支出 | 18,608,933 | - | 18,608,933 | - | - | - |
| その他の支出 | - | - | - | - | - | - |
| 事業活動支出計 | 216,680,164 | 22,353,797 | 89,755,234 | 28,419,604 | 19,911,320 | 56,240,209 |
| 事業活動資金収支差額 | 7,152,492 | -5,495,425 | 19,726,626 | -3,663,499 | -116,165 | -3,299,045 |
| 施設整備等 | | | | | | |
| 施設整備等収入計 | - | - | - | - | - | - |
| 施設整備等支出計 | 180,000 | - | - | - | 180,000 | - |
| 施設整備等資金収支差額 | -180,000 | - | - | - | -180,000 | - |
| その他の活動による収支 | | | | | | |
| その他の活動収入計 | 27,758,709 | 20,500,000 | - | 3,663,499 | 296,165 | 3,299,045 |
| その他の活動支出計 | 30,758,709 | 12,258,709 | 18,500,000 | - | - | - |
| その他の活動資金収支差額 | -3,000,000 | 8,241,291 | -18,500,000 | 3,663,499 | 296,165 | 3,299,045 |
| 予備費支出 | - | - | - | - | - | - |
| 当期資金収支差額合計 (a)+(b)+(c) | 3,972,492 | 2,745,866 | 1,226,626 | - | - | - |
| 前期末支払資金残高 | 111,007,310 | 45,781,551 | 65,225,759 | - | - | - |
| 当期末支払資金残高 | 114,979,802 | 48,527,417 | 66,452,385 | - | - | - |

事業活動計算書

（自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日）

（単位：円）

| 科目 | R5年度 法人合算 | 拠点区分 | | | | |
|----------------------|--------------|------------|-------------|------------|------------|------------|
| | | 本部 | ピアス | なびい | 総機季Ⅰ | オーブナー |
| サービス活動増減 | | | | | | |
| 収入 | | | | | | |
| 就労支援事業収益 | 18,380,005 | - | 18,380,005 | - | - | - |
| 障害福祉サービス等事業収益 | 203,528,142 | 15,335,200 | 90,706,563 | 24,750,083 | 19,795,140 | 52,941,156 |
| 経常経費寄付金収益 | 575,000 | 575,000 | - | - | - | - |
| その他の収益 | 328,760 | - | 328,760 | - | - | - |
| サービス活動収益計 | 222,811,907 | 15,910,200 | 109,415,328 | 24,750,083 | 19,795,140 | 52,941,156 |
| 支出 | | | | | | |
| 人件費 | 148,160,412 | 13,763,892 | 50,169,467 | 22,208,397 | 16,532,276 | 45,486,380 |
| 事業費 | 7,758,358 | 988,831 | 5,542,934 | 537,116 | 689,477 | - |
| 事務費 | 32,792,727 | 6,869,650 | 11,786,820 | 4,697,381 | 1,629,937 | 7,808,939 |
| 就労支援事業費用 | 18,608,933 | - | 18,608,933 | - | - | - |
| 減価償却費 | 6,128,272 | 4,984,231 | 527,709 | 286,961 | 329,371 | - |
| 国庫補助金等特別積立金取崩額 | -2,690,580 | -2,690,580 | - | - | - | - |
| その他の費用 | - | - | - | - | - | - |
| 引当金繰入費用 | 8,586,268 | 407,916 | 3,099,892 | 982,110 | 777,270 | 3,319,080 |
| サービス活動費用計 | 219,344,390 | 24,323,940 | 89,735,755 | 28,711,965 | 19,958,331 | 56,614,399 |
| サービス活動増減差額 | 3,467,517 | -8,413,740 | 19,679,573 | -3,961,882 | -163,191 | -3,673,243 |
| サービス活動外増減 | | | | | | |
| サービス活動外収益計 | 1,020,749 | 948,172 | 66,532 | 6,022 | 15 | 8 |
| サービス活動外費用計 | - | - | - | - | - | - |
| サービス活動外増減差額 | 1,020,749 | 948,172 | 66,532 | 6,022 | 15 | 8 |
| 経常増減差額 | 4,488,266 | -7,465,568 | 19,746,105 | -3,955,860 | -163,176 | -3,673,235 |
| 特別増減 | | | | | | |
| 特別収益計 | 25,758,709 | 18,500,000 | - | 3,663,499 | 296,165 | 3,299,045 |
| 特別費用計 | 25,758,709 | 7,258,709 | 18,500,000 | - | - | - |
| 特別増減差額 | - | 11,241,291 | -18,500,000 | 3,663,499 | 296,165 | 3,299,045 |
| 当期活動増減差額 (a)+(b)+(c) | 4,488,266 | 3,775,723 | 1,246,105 | -292,361 | 132,989 | -374,190 |
| 繰越活動増減差額 | | | | | | |
| 前期繰越活動増減差額 | 107,800,833 | 62,329,866 | 51,505,844 | -506,836 | -2,583,152 | -2,944,889 |
| 当期末繰越活動増減差額 | 112,289,099 | 66,105,589 | 52,751,949 | -799,197 | -2,450,163 | -3,319,079 |
| 基本金取崩額 | - | - | - | - | - | - |
| その他の積立金取崩額 | 2,000,000 | 2,000,000 | - | - | - | - |
| その他の積立金積立額 | 5,000,000 | 5,000,000 | - | - | - | - |
| 次期繰越活動増減差額 | 109,289,099 | 63,105,589 | 52,751,949 | -799,197 | -2,450,163 | -3,319,079 |



2024（令和6）年度 賛助会費 お振込用紙同封のお知らせ

賛助会員の皆様には、いつもご支援賜り厚くお礼申し上げます。

今号に、2024（令和6）年度 賛助会費お振込用紙（払込取扱票）を同封しております。

個人会員様 2000円、団体会員様 5000円からにて、引き続き変わらぬご支援を頂けましたら幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。

また、お手数ですが、払込票にはお名前、ご住所のご記入をお忘れなきよう、お願ひ申し上げます。

お振込先

金融機関名 ゆうちよ銀行

□座名義 （社福）多摩棕櫚亭協会賛助会

□座番号 普通 00110-2-425269



◆ 棕櫚亭 各事業所のご報告 & お知らせ ◆

法人本部

【ご報告】

- 9月19日 厚生労働省の見学を受け入れました
- 【予定】
- 11月4日 くにたち市民まつりにホットドッグを出店します。ぜひ遊びにいらしてください！
- 11月22日 18:30～ 理事会

オープナー

【ご報告】

- 7月19日 多摩就労支援ネットワーク連絡会議 障害学生・若者が社会や職場の中で活躍するためには～私たちにできることは？～と題し、ハローワーク立川と共催で行いました。
- 【予定】
- 10月16日 第1回精神障害者就労定着支援連絡会（第2回は日程未定）
- 1月28日 当事者セミナー 国立市と共催します

棕櫚亭Ⅰ

【小堀令子&棕櫚亭の仲間たち絵画展】

日時：令和7年3月20日（火）～3月30日（日）
 場所：ストライプハウスギャラリー（東京都港区六本木5-10-33）
 時間は未定のため改めてホームページなどでお知らせします。
 今回の絵画展では初めてメンバーの作品の販売を予定しています。なにぶん初めてのことで、展示の仕方や価格設定、お客様対応のシフトなど、これから細かい部分を詰めていく予定です。皆さまには是非足を運んでいただけたら幸いです。

ピアス

【ご報告】

- 8月29日 いんくるへ合同研修に行ってきました
- 9月20日 調布市こころの健康支援センター 職員見学受け入れ
- 9月21日 家族説明会を開催しました
- 【予定】
- 10月11日 東京YMCA 医療福祉専門学校へ出張講義を予定しています
- 11月17日 NHK 学園高等学校 学園祭に出店します

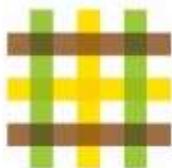
なびい

【ご報告】

- 8月23日 市内の福祉事業所ふっくりー なびいにて出張販売会・ワークショップを開催しました

……編集後記……

去年度末は、能登半島の地震もあり防災について取り上げましたが、その後も大きな地震や水害が度重なり、いくら備えていても十分ということはないのだと痛感しております。この度被害に遭われた方々へお悔やみとお見舞い申し上げます。
 さて、夏の終わりには発行をと思っておりましたが、早10月となってしまいました…。今年も残すところあと数か月ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。（尾崎）



社会福祉法人

多摩棕櫚亭協会

ウェブサイトにて最新の情報をお届けしています。

☞『棕櫚亭』で検索
www.shuro.jp



【編集】国立市富士見台1-17-4
 社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会
 はれのちくもり編集委員会
 Tel 042-575-5911

【発行】特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
 〒157-0072 世田谷区祖師谷3-1-17-102
 Tel 03-6277-9611

【定価】100円